



じゃがいもずきん「ききぼう」くん

防災ワンポイント 第25回 災害を想定してみよう

災害の危険性は普段目に見えず、目に見えないものに対しては「備える」ということになかなか結びつきません。中標津町では地震、洪水、吹雪など、いくつかの災害が考えられますが、普段から備えていることはありますか？ 備えがなければ災害発生後の行動が上手くいかないかもしれません。災害はいつくるかはわからない、けれど「明日くる」といわれれば、きっと多くの人が対策を考え実行します。災害が起きたときのことを想定して、自分がどういった行動を取るのか考えてみましょう。

●災害が起こったときのことを考えてみよう

下記の表を自分に当てはめて考えてみよう。

40代のお母さん。夫と小学生の子供がいる。平日の夕方、震度6弱の地震が発生した。

	何をしている？何をやる？	家族の様子は？
地震発生	<p>職場で働いている。 まわりに大きな本棚があるので倒れないよう抑える。</p> <p>大きな地震のときはうまく身動きが取れず、家具を抑えようとして怪我をしてしまうので事前に固定しておくことが必要。</p>	<p>夫も働きに出ている。 子供が自宅に一人でいる時間帯。</p> <p>家の家具は固定していますか？大きい地震の場合、家具は倒れるだけでなく動く、飛ぶ、落ちる、割れることがあります。</p>
地震発生～1時間	<p>子供が心配だからすぐに自宅に向かう（車で10分くらい）。 夫と連絡を取る。 役に立ちそうなものは携帯電話と携帯の充電電池しかもっていない。</p>	<p>夫の職場は離れているのですぐには帰ってこない。</p> <p>大きな地震が発生すると、みんな一斉に電話するため回線が混雑します（輻輳）。電話が繋がらないことがあるので注意。</p>
1時間後～3時間	<p>自宅で子供と片付け。 両親と連絡を取る。</p> <p>家が安全かどうか確認しよう。まず家の外壁に大きな亀裂が入っていないか、ガスボンベが倒れていないかなど。</p>	<p>夫が帰宅する。</p> <p>大きい地震の場合、停電や断水が考えられます。また、道路も大きな被害を受けるため、移動するときは注意。</p>

周りで怪我をした人がいたり、ひょっとしたら自分が怪我をして動けなくなるかもしれません。地震で怪我をする原因の多くは家具の転倒や落下です。



地震で周りや自分が怪我をしたり、停電、断水など、ライフラインの停止を想定した備えがない状態では、考えていたおりの対応ができません。地震が発生した時に「怪我をしないように対策する」ことは、災害発生後、適切な行動をとるために必要です。

また、地震で火災が発生することもあります。大きな地震が発生したときには、必ず周りの様子を確認しましょう。

【防災訓練を実施しませんか？】



災害に事前に備えるため、個人で実施できる家具の固定・備蓄品を備えるほかに、町内会や企業等での防災訓練を実施しましょう。

中標津町では平成6年10月4日に発生した北海道東方沖地震を教訓に、毎年町内会との防災訓練を実施しています。町内会や企業・団体等と一緒に防災訓練を実施しませんか？

- ①どんな災害に備えますか？（地震・洪水・土砂崩れなど）
 - ②どんな訓練を実施しますか？（避難訓練・消火訓練・図上訓練・ゲーム形式の訓練など）
- 詳しくは総務課防災係にご相談ください。

なお、今年度は防災訓練以外に地域防災研修会を開催する予定です。

詳しくは、総務課 防災係まで。